

合同HR

進路達成に向けて語る

「最後まで諦めずに挑戦」

合同HRが12月17日の1時間目に行なわれ、各学科で3年生の代表が進路決定について体験を通して話をし、2年生にした。3年生の話聞いた1、2年生に取材した。

電気科

資格取得を目指す

電気科は1、2年生のHR教室で行なわれた。楠美響太君(電2)は「就



後輩に自分の進路について語る安孫子恋君(電3)

職を希望しており、先輩の話聞いて成績が大切だと知った。希望する就職先へ行くために評定平均で3以上はあると良いと分かった。まずは進級に向けて頑張らなくてはならないため、特に苦手な電気

の専門教科の克服を目指す」と話した。

小西輝君(電1)は「就職を目指しているが、取得する資格は多い方が良いと知った。特に第二種電

気工事士は電気系企業に就職する上で必須だと話していたので、4月から始まる資格対策の講習についていけるように頑張りたい。面接練習は回数をおこなした方が本番の緊張を和らげやすいと聞いて参考になった。特に野澤久先生の面接は的確なアドバイスと鋭い質問をしてくると話していたので、3年生になったらしてもらえようように覚えていようと思った。平均評定を上げると他生徒より就職活動がしやすいになるので、普通教科で苦手な英語を克服していきたい」と話した。

工業化学科

早めに企業と接触

工業化学科は1、2年生のHR教室で行なわれた。石川晴樹君(化2)は「就

吹奏楽部

楽曲の背景を共有 観客に感動を届ける

吹奏楽部の第19回定期演奏会が12月25日17時30分から大雪クリスタルホール音楽堂で行なわれた。1〜3年生の部員と卒業生、顧問と演奏協力としてアンサンブル・スウォナーの賛助を含めた28人で演奏を行なった。

おり第一部は今年の吹奏楽コンクールの課題曲「バレエ組曲『青銅の騎士』」を含めた3曲を演奏。第2部はアンサンブルステージと題し、もりのくまさんを含めた数曲を演奏した。第3部はポップステージと題して「青と夏」を含めた数曲を演奏した。また昨年

に続き旭川ユカラさんとコラボした演奏も披露した。昨年滝川工業高校へ転校された元電気科の小池圭太先生は「2、3年生の知っている生徒が演奏しているうれしかった。歌とダンスも素晴らしい」と話した。

市内の70代女性は「毎回演奏会に来ている。『草薙の剣』が迫力がありとても良かった。OBの孫の演奏を見に来たがとても良い演奏だったのでまた見にいきたい」と話した。今回の演奏会について新部



ゲストを迎えて演奏する吹奏楽部

長原優月君(電2)は「『ドラゴンクエスト』による

コンサートセレクション」が一番手応えのある演奏だった。音色や吹き方の統一に加え、演奏時の雰囲気や楽曲の背景を部員全体で共有することに苦労した。新部長となり、次は自分が部を引っ張っていくという自覚が強くなった」と話し、「このメンバーで演奏できる時間は限られている。だからこそ、今この瞬間を大切にしながら、演奏を聴いてくれるすべての人に感動を届けられる吹奏楽部を目指していきたい」と抱負を述べた。

支部新人大会

三村君 組手で1位 荻原さんが2位で全道へ

第43回北海道高等学校空手道選抜大会旭川支部予選大会が11月15〜16日に東光スポーツ公園武道館で行なわれた。結果は三村駿太君(化1)が組手55kg級で1位、荻原ゆあさん(化1)が女子組手で2位、上森謙太郎君(機1)が形で5位に入賞し、全道大会進出を決めた。荻原さんは「今回の大会では相手の選手が強かったが、落ち着いて冷静に戦えた。過去に負けたことのある選手と当たり、トラウマで自分から攻められなかったことが

反省点。全道大会に向けてノーモーションで技を出す練習に取り組んでいる。全道大会ではもっと勇気を出して、自分から攻めてポイントを取れるようにしたい。一回でも勝てるように頑張る」と話した。上森君は「支部大会ではあまり良い結果ではなかった。練習した成果を上手く発揮できなかったが、本気で大きな声を出すことができ。全道大会ではこの悔しさをばねに、充実した練習をして、高い結果を収められるように頑張る」と話した。

空手道

情報技術科

進路は勉強が大事

情報技術科は1、2年のHR教室で行なわれた。泉駿利君(情2)は「進路希望だが、就職ではコミュニケーション能力が大切だと感じた。面接練習や部活動を大

や行事に真剣に取り組む、自分の長所と課題を把握したい。また、進路について積極的に調べ、先生や家族と相談しながら、自分の目標に向かって努力していく」と話した。

中嶋未留人君(情1)は「先輩方が筆記試験でその試験に合った参考書で勉強したい、面接練習では自分の科で

新聞局は今年7月28〜30日に秋田県で行なわれる第50回全国高等学校総合文化祭新聞部門への参加が決定した。前年度11月から今年度10月までに発行した新聞が審査の対象になる第30回全国高校新聞年間紙面審査賞の第一次審査を通り、全国から43校が選ばれた入賞校枠での全国高等学校総合文化祭への参加要請を受けた。新聞局は工高タイムスの第501号から第528号までの28号を応募した。協力のもと新聞を制作して

13回目の全国出場

旭工生の協力のおかげ



新聞局が入賞校枠で参加するのは11回目。北海道高文連からの推薦による参加を含めると13回目となる。局長の稲留駿斗君(電2)は「全国大会出場が決まってもうれし。参加する部員には新聞づくりの技術をたくさん学んでかつ精一杯楽しんでほしい。また全国への切符が手に入ったのは旭工生の皆さんが取材に協力してくれたおかげだ。今後も皆さんの

協力のもと新聞を制作していききたい」と話した。